



傳式説氏ノ汪兆銘ニ關スル報告
附 上海ニ於ケル和平運動經路

井 上 匡 四 郎



Y	Y
2	2
6	6
No.	
南大圖書印	

0432

傳式說氏ノ汪兆銘ニ關スル報告

附 上海ニ於ケル和平運動徑路

井 上 匡 四 郎

傳式說氏ハ浙江人、大正四、五年頃ノ東大出身工學士。在學中採鑛學科ニ在リテ、三ヶ年間餘ノ採鑛學ヲ聽講セリ。卒業後モ不絶連絡アリタル者ナリ、時變前ハ上海大夏大學教授ノ現職ニアリタリ。今夏特ニ上海ヨリ台北ニ呼寄セ、一月二十六日全地ニテ余ト懇談シ、翌二十七日ニ香港ニ向ケ出發セリ。余ト氏トノ關係ハ右ノ如クナレバ、尠クトモ余ニ向ツテハ事實ヲ歪曲シテ語ラザルコトヲ信ズルモノナリ。以下ハ其談話ヲ記錄シタルモノナリ。

昨年（昭和十三年）二月上海ニ於テ、梅恩平ヨリ日本トノ和平運動ニ付キ共力スベキコトヲ依頼シ來リタリ、初メ大ニ疑ヒタルガ、梅ハ其後黨トノ關係ヲ斷絶シテ運動ニ從事スルコトヲ申來リタリ。

0433

梅ハ自分（傳）トハ親戚ニテ、陳立夫、陳万夫ト近シ、中央政治學校ノ教
師ニシテ、コーネー（高寧）^{（高寧）}縣ノ實權ヲ有ス。

其後梅ハ漢口ニ行キ、高宗武（亞洲局長）ト相談シ其意見ヲ需メタルガ、
高ハ和平運動ハ最モ慎重ニナスベキコトヲ説キタリ。

四月原田少將ヨリ維新政府ノ教育大臣タルコトヲ勸メラレタルガ、自分ハ
政治ニハ關係セズトノ理由ヲ以テ斷リタリ。

四月上海ヲ離レ漢口ニ行キ梅ニ會ヘリ、此時梅ハ同志^志ノ増加セルコトヲ告
ゲ、且長期抗戰ニモ反對セザルベカラザルコトヲ力説シ、長期抗戰ハ中國ヲ
共產化スルコトヲ説キタリ。

同志トシテハ、漢口ニ於テハ高宗武、重慶ニ於テハ周佛海ガ同志間ノ往復
連絡ヲナスコトトナリタルヲ告ゲ、梅ハ香港ニ於テ、自分（傳）ハ上海ノ連
絡ヲ依頼サル。

然シテ此頃、傳貴州（？）ニ行クコトトナリタリ。此頃自分（傳）ノ噂（
和平運動者トシテノ？）ガ大分高クナリ、王傳文ト陳立夫トノ相談ノ結果、
安全ノ爲メ漢口ニ來ルベキコトヲ申來レリ、然シ此時ハ自分ハ既ニ香港ニ來
リ居リタリ。

0434

此時自分ノ舊弟子ニテ第六中央軍監學校第六分校政治部主任倪文亞ガ日本
トノ連絡ヲ依頼シ來リタリ。倪ハ大夏大學卒業生ニシテ藍衣社ニ入り、北京
藍衣社特派員トシテ昨年二月ヨリ天津ニ居リタリ。此時漢口ヨリ迎ヘガ來リ
タルガ、倪ハ漢口ヘ行ケバ軟禁サル、故、行カザル方宜シト忠告セリ。

其後自分(傳)ハ貴陽ニ學校ヲ見ニ行クト稱シ、出テ暫時貴州ニ隠レタリ
十七日後、廣西監察(?)トシテ逃出シ、廣西ノ學校長王傳文ノ田舎ノ家(北
龍縣)ニ隠レタリ。然シテ自分ノ卒業生ニ護衛サレテ、梅ニ會フベク香港
ニ來リ、同志ノ増加ヲ知り、漢口ニ行キ周佛海ニモ會ヒタリ。

此時將來ノMao Tse Tung トシテ誰ヲ戰クベキカヲ問ヒタルニ、直ニ汪ナルコト
ヲ答ヘタリ。然シテ汪ノ諒解ヲ得居ルヤヲ訊シタルニ、之ハ確カニ聞テ居ル
故大丈夫ナリ、又聞クト反ツテ汪ハ困ル故開カザル方宜シト云フ、然シテ
吾々ハ將來三民主義ニ沿ウテ行動セザル可ラズ、之ニ付テ日本トノ相談ヲシ
テ吳レト依頼サレタリ。

然シテ七月(昨年)上海ニ於テ原田少將ニ會ヒタリ。

大使館書記官清水廣三氏トハ、一昨年十一月ヨリ交渉アリ、清水氏ハ南京
政府ヲ造ルニ最も與リタル人ナリ。

町尻少將へハ原田少將ヨリ電報セルガ來ラサリシ、然シテ七月廿三日（？）十時ヨリ十二時マデ懸談セリ。

懸談内容ハ、維新政府ノ人ハ互ニ相知ラズ、コレデハ駄目ナリ、政治ニハ主義ガナケレバ駄目ナリ、之ハ矢張三民主義ガ宜シ。三民主義ハ空デアル故ニ何デモ取入レラレル故ニ、將來ノ政府ハ三民主義ヲ取ルコトナセリ。

其後二週間、藤山教授ガ來リ、暨南大學教授趙正平ト共ニ會ヒタリ（藤ハ三、四年日本ニ學ビ、物理學校ニモ居リタリ、實學ト關係アリタル人ナリ、中國建國學會ヲ造リ、舊山會議ニモ列リタリ）藤山氏モ贊成セ共産主義ニナラヌヤウニ三民主義ヲ採用スルコトナリタリ。藤山教授歸國後ハ同盟ノ松本氏ガ交渉ニ當リタリ。然シテ九月十五日大本營陸軍參謀會議ニ於テ改定三民主義ガ通過セリ、即チ大亞細亞主義三民主義ト決定セラレ、自分（傳）此決議ノ Declarationヲ受領セリ。

又政黨名トシテハ、新中國々民黨、興中黨、善民黨等ガ申出サレ、今日尙ホ自分等ハ善民黨トシテ行動セリ。

今日ハ主トシテ特務部關係カ折衝セリ。三木、速見、永澤（滿鐵特務部）等ナリ。

0436

九月十一日三民主義ノ日本側修正案ヲ持テ香港ニ行キ、高宗武、梅等ト會ス（趙ト共ニ行ク）。梅ハ此案ヲ持テ重慶ニ飛行セリ（之ハ廿四日ニシテ重慶東陷落後ナリ）。香港ニハ趙ヲ殘シ、廿九日香港發上海ニ歸レリ。梅ハ重慶ヨリ上海ニ來レリ。此時頃ヨリ日本側モ重キヲ置ク様ニナレリ。此ノ爲ニ大本營ヨリ今井中佐上海ニ來ル。十一月、同盟古野氏モ來ル（松本氏病氣トナリタル故、連絡惡クナリタリ）然シテ今井、古野氏等ハ果シテ實現可能ナリヤヲ問フ。梅ガ來リ重慶ノ様子ヲ報告セリ。然シテ周佛海ガ中心トナル。汪ノ考ハ大抵同一ナリ、質問セバ反ツテ困ル故敢テ問ハザリシガ大丈尖ナリト云フ。然シテ重慶ニハ共鳴者多シ、然シテ左記ノ上、中、下策ヲ述ベタリ日本軍ノ考ハ中策ナリシ（ロ）

今井中佐ハ、梅トハ直接面會セズ、然シテ梅ハ香港ニ歸リ重慶ニ行キタリ上海ノ報告ヲナセルナラン。十二月十五日上海ニテ梅ハ今井氏ト會フ打合せセザリシガ兩者來ラズ、然シテ十二月廿一日、汪ノ重慶逃出トナレリ。

然シテ周ハ雲南ニ殘リ、十一月九日（？）周ハ雲南ニ於テ、梅ハ香港ニ於テ同時ニ意見ノ發表ヲナセリ。之ハ *Confidential* ナリ。今井中佐ハ一ヶ月香港ニ留リ、一月十四日上海ニ來リ、十五日東京ニ行ケリ。

0437

自分（傳）ハ土庫原中將ニモ會ヒ、一切ノ工作ハ今井中佐ニ委任セラレ居ルコトヲ聞ケリ。

汪兆銘ノ同志

附○○○

陳立夫、陳星夫（○○○）

陶希歐（北京大學教授）

張公權（中國銀行總理）

張氏ハ直接表面ニ出ルコトヲ避ケ其代理トシテ

郭心崧（郵便局總局長）ヲ出セリ。

周作民（京都大學出身、金城銀行總理。兒玉氏（元正金銀行）ト親シ、實業會々長）

程テフ（四川大學校長、元獨逸大使タリシ人、汪ヲ成都ニ迎ヘ雲南

ニ避ケシメタル罪ニテ免職サル）

上記ノ如ク汪ノ共鳴者中ニハ○○○派ノ頭部多數ナリ、然ルニ汪脫出以後國民政府ニ反對ノ聲ヲ擧ゲテモ、國民政府ハ如何トモ爲シ得ザル情況ナリ。今日國民政府ノ汪ニ對スル政策トシテハ之ニ餘リ觸レズ、新聞等ニ書カザル政策ヲ取り居レリ。

0438

○。○。派ハ元來黃埔係藍衣社ニ對立シテ構成セラレタル、共ニ一フアシス
トナリ。○。○。派ハ近來大ニ人心ヲ失ヘル故、蔣ハ陳立失ヲシテ中央組織
○。○。派ノ事變當時、對日積極政策ヲ主張シタルハ、戰爭ニ依リ自覺ヲ強
大ニシテ國民政府部内ニ漸次共產黨ガ昂頭シ來ルニ至リ、漸次汪ノ方ニ傾キ
來タレルナリ。

此ノ行動ニ就テハ、新報經理（？）趙叔雍ガ與リテ力アリ。○。○。派ハ今日
ハ藝文社ヲ造リ、其ノStoragトシテハ「反共復國」ヲ以テス

今日親日派ニ於テモ種々ノ疑問ヲ持ツニ至レリ、即チ日本ハ或ハ好名目ノ
下ニ支那ヲ丸呑ミニスルニアラザルカ、日本ハ東亞ノ共同体トシテ日滿支ト
シ、斯クシテ支那ヲ滿洲ノ下ニ置ケリ、之ハ支那ヲ滿洲ノ下ニ置キ、滿洲ト
同様ニスルニアラザルカ。支那トシテハ滿洲ハ未解決ノ問題ナリトシ、此ノ
如キ疑念ヲ以テ東亞ノ共同体ナル語ヲ解決セントシツツアリ。

此ノ問題ニ付、最近上海ニ日本ヨリ新友社ガ來レルガ、其團員ハ慶應大學
經濟學博士賀田、法政大學教授谷川及比原勝ノ三人ナリ、三同意見ノ交換ヲ
ナセリ。日本大使館清水氏モ加ハレリ。支那側ハ政治文化者參加ス。然ルニ
賀田、谷川兩氏トモ理想ノミニシテ其ノ内容ナシ、其ノ云フ處ハ、共同体ノ

組織ハ日本ガ獨リデ作ルニ非ズシテ、支那側ト共同シテ作ルト云フニ止マリ
具体策ナシ。

其ノ結論トシテハ

第一、支那側ハ會議ノ構成分子トシテハ日支ノミトシ、滿洲ヲ除ク。

第二、支那ハ近來軍閥ノ壓迫ニ苦シミ居ルガ、蔣ハ此ノ軍閥ヲ平ゲタル結果トシテ、蔣ノ壓迫（帝國主義）ヲ排除セザル可ラズ、日本ハ內的ニ資本主義ノ壓迫ヲ受ケ居レバ、此ノ兩壓迫ヲ排除スル方法ヲ講究ス。

第三、日支兩國ハ此理論ヨリ全亞細亞各國ヲ引入レ、全亞ヲ以テ白人ノ壓迫ニ當ラン。

賀田氏ハ經濟提携ニ付キ色々ノ事ヲ云ヘリ、之ハ專門委員ヲ作ルガ、軍部ト提携シテ離レタ方法デハ不可ナリ、又支那側ヲ提ゲテ行クトイフ方法モ不可ナリ、其ノ程度範圍ハ專門委員ニ任スベシ。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

陳立夫ハ殺害サレタルナラン。

先日ノ國民黨中央政治會議（中心會議ナリ）ニ陳立夫ハ出席シ居ラズ。陳

ハ中央施行委員。教育委員、長兼社會部長ナル故、必ず出席スベキナリ。然レテ
本月ニ至リ重慶ノ消息トシテ陳ハ流行性感冒ニ罹サレ休業中ナルコトヲ報ズ
甚ダ奇怪ナリ、多分殺害サレタリト信ズ。

重慶ニ於ケル汪一派ノ計畫

上策―四川、廣西ニテ○○○○起ス。

中策―總退却ヲヤリ、非戦闘區域ニ於テ政府ヲ樹立シ、而シテ重慶政府
ヲ否認スル。

下策―戦闘區域内ニ中央政府ヲ樹立ス。

陳ハ下策ヲ主張セリ。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

四月上旬、上野太忠氏談（上海租界祁齊路三一〇、上海自然科學研

究所）

汪一派ノ計畫

1、蔣ニ共產黨ナリトノ刻印ヲ押ス。

2、蔣政府中ヨリ重要人物等ヲ呼出シ、彼ヨリ去ラシム。

0441

3. 軍閥トノ關係（雲南）ヲ造ムトス。

汪兆銘

汪ノ目録ヨリ見エタトシテハ陳公博、曾仲銘、顧雲余、褚民誼等ハ汪ニ
是等ノ思想ヨリスルモ、汪ハ當初ヨリ日支事變ニ對シテハ消極的態度ナリ
シ。蔣介石ハ漢口陷落前、其ノ形勢非ナリト悟リ、英國大使ニ下ノ三
條ヲ提出シ來口ヲ閉ジタリ。

第一、英國ヲ中心トスル列強ヲ加ヘタル仲裁國ヲ作り、和平ノ時局ヲ
スロト。

第二、第一ノ不可能ナル場合ハ、英國ハ將來徹底的ニ中國ヲ援助スル
約束ヲナスコト。

第三、第一第二共不可能ナル場合ハ、蔣ハ將來蘇聯ノ援助ヲ請ヘルコト
ヲ承諾セラレタリ。

英國政府ハ此ノ提案ニ對シテ回答ヲ與ヘズ、又蔣ノ要求ニ應ジ漢口ハ
來ラザリシ。

此間ニ漢口ハ陷落セタリ、蔣ハ失望ノ余リ汪兆銘ニ對シ、自分ハ下野ス

0442

故、自分ニ代リ和平交渉ニ當ルベキコトヲ申出デタリ、汪ハ之ヲ高
宗武（元亞洲局長）ニ傳ヘ助力ヲ需メタリ。高ハ末ダ其ノ時機ニアラ
ズ、又日本側ノ意見モ決定シ居ラザルノ故ヲ以テ斷リタリ、依ツテ汪ハ
蔣ノ依頼ヲ受諾セザリシ。

高宗武ノ意見トシテハ、蔣ハ屢々説ヲ變更ス、然シテ今ハ共產派ノ云フ
通りニ勸ム居リ、又日本ノ意見モ未ダ定マリ居ラズ、故ニ出ヌ方ガ宜シ
又汪ノ親近ノ者モ同様ノ意見ナリシ故ニ、汪ハ消極トナリタリ、而シテ
漢口陷落后、蔣ハ第四期戰ニ入レリ、此時汪ハ最早歎目ナリト思ヒタリ
此間日本ノ思想方向モ明カトナリタリ、然シ其ノ内容ハ不明ナリ。

汪脱出ノ経路

重慶ニ於テ蔣ガ飛行機ニテ歸來スルヲ（何ノ用事ニテ離慶セルヤハ問カ
ズ）迎フル爲メ要人等飛行場ニ集マリタリ、然ルニ蔣ノ到着遅ル、ヲ知
リ折角要人等集マリ居ル故、此ノ機會ヲ利用シテ話ヲセント云フコトニ
ナリタリ。此ノ集會ノ席上、汪ハ恆戰必敗、恆抗必滅ノ説ヲ辯フ、衆
然タリ暫時ニシテ蔣ノ飛行機到達シ、其夕一同會食セリ。此ノ席上蔣ノ

直系部下ノ者、前キノ會合ノ際、汪ノ述べタル説ヲ傳フ。蔣ハ大ニ立腹シ汪ヲ難シタリ、此ニ於テ汪ト蔣トノ間ニ激烈ナル議論ガ戦ハサレタリ此時以來汪ハ到底蔣ト事ヲ共ニスル能ハザルヲ確認シ、重慶ヨリノ脱出ヲ覺悟スルニ至レリ。其後蔣、軍用ヲ帶ビ重慶ヲ離ル、ノ機ニ、兼テ四川成都大學長ト牒シ合ヒ、汪ニ大學ニ於ケル講演ヲ依頼スルトノ名目ノ下ニ重慶ヲ去リ、成都ニ到リ、成都ヨリ飛行場ニ人ヲ見送りニ行クトノ名義エテ、其ノ儘機中ノ人トナリ昆明ニ飛行シ、昆明ヨリハ兼テ陳合ハセシ周佛海ト共ニ河内ニ飛行セリ。

(14.1.26 台北ニテ)

0444